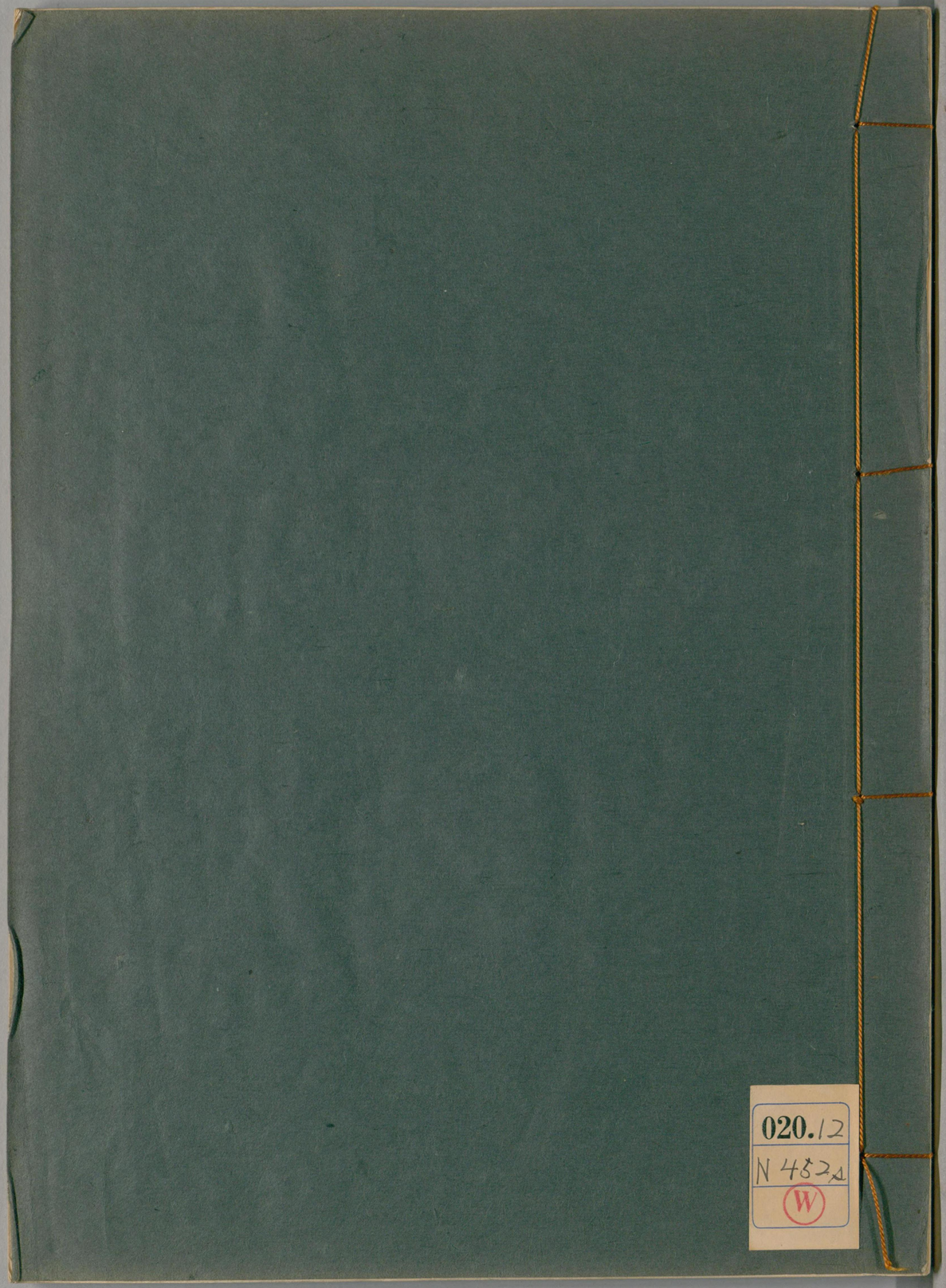
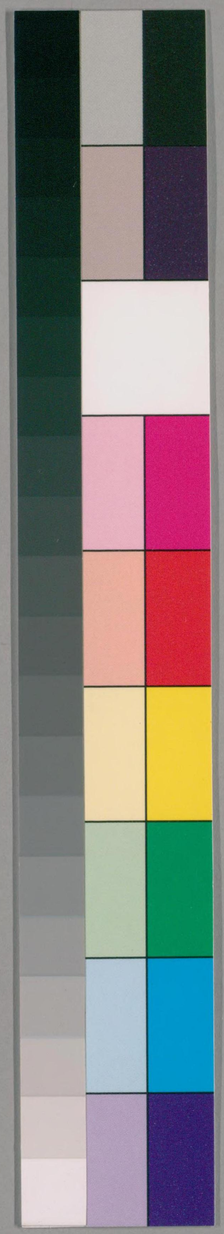


020.12
N 482s
W



国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s

ガラス使用

020.12
N452A

国立国会
29.7.22
図書館

336239

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s

ガラス使用

支那書史学

目次

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

支那書史學

中根粛治講演

余の支那書史学講演ハ其説浩瀚なるにも拘らず僅々二時間の配当時限なりしと言舌の明暢ならさりしう為め其大要を充分述る事を得るに至らすして卒りしハ甚遺憾とする処なり故に今更に当日の稿を記して聊か其責を塞んとす但し当時省略に付せしものも煩を厭ハれ悉く之を掲くる事となしぬ

支那書史学

目次

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

第一章 總說

書籍ノ起原

書籍表裝ノ變遷

歷代書籍ノ盛衰

書籍印行の濫觴

第二章 歷代史志

漢書藝文志

隋書經籍志

唐書藝文志

宋史藝文志

元史藝文志

国史経籍志

明史藝文志

皇朝経籍志

遼金元藝文志

補遼藝文志

第三章 歷代帝王收藏書目

魏鄭默中経及新簿

東晉李充義熙以来新集書目

同 謝靈運四部目録

同　王俭七志
齊王亮四部目録
梁任昉四部目録
同　文德殿目録
日本現在書目録 本邦人撰

第四章　同

宋文淵閣書目
宋内閣藏書目録
清四庫全書總目提要
梁阮孝緒七録

通志藝文略
国史経籍志
皇朝経籍志
四庫未收書目

第五章　歴代私藏書目

世善堂藏書目録
澹生堂藏書目録
文端樓藏書目録
絳雲樓藏書目録
也是園藏書目録

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

第六章　解題書目錄
郡齋讀書志
史略
子略
文獻通攷經籍考
經義攷
第七章　鑒識書目
天祿琳琅書目
百宋一廛藏書志
讀書敏求記
經籍訪古志本邦人撰
第八章　各種書目
醫書目錄
釋書目錄
第九章　攷僞書目
古今僞書考
贋書考
經義攷
第十章　彙刻書目

336239

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

目覩書目
彙刻書目

第十一章雜説

藏書紀要
澹生堂藏書紀要
滬中鏡 本邦人撰

三皇の事邈として攷ふ可らに司馬遷の史記筆を五帝に始む而して三墳五典八索九丘の書名ハ傳ると雖に秦漢以来見たる人を聞ふに春秋戰国の時代孔子之を筆削して書となり易となり禹貢となる而して孔子又春秋詩を撰めり老子孟莊等尋て出て申韓となり魯仲連鄒湯の徒椀直を以て聞ゆ蘇秦張儀の横議ハ三寸の舌能く六国を聳動せり戰国の末に至り荀卿韓非等出て一ハ礼儀を唱道し一ハ形名の学を説く秦皇書を焼き儒を坑にす然れ共博士官ハ依然藏書を讀むを禁せず李氏又窃に讀む其文辞の英勁なるを見るへし

336239

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

漢興て狹書の律を廢す於是文學漸く感あり施孟梁
丘京ハ易を以て伏生孔安国ハ書を以て申公轅固
韓生ハ詩を以て高ハ礼を以て其名を得樂ハ毛
生ニハ依りて論語ハ共奮ニ依りて孝経ハ張禹ニ依
りて傳へらる竇太后黄老の説を喜ひしも董忠節の
建言により儒学為めに流行せり
光武中興大学を起し馬融鄭玄等訓詁の学を講す桓帝
の時諸生三万余人に及へり然れ共其学風ハ西漢の活
気あるに若のさるハ甚惜むへし然れ共文学の士に
賈誼楊雄あり史家に司馬遷班固あり詩賦に司馬相

如蔡邕あり
蜀呉魏對峙す此時代を三国と称す西晋東晋宋齊梁
南晋東西両魏北齊後周之を六朝といふ武帝陽暦阮
籍謝灵運顔延之等詩賦を以て称せらる然れ共宋已
後ハ文運衰弱し気韵甚卑し四六併麗体の文ハ此時
に起る
隋に至り六朝の弊を受け文学振ふに至らしと雖も
煬帝及び楊素の詩ハ一ハ超然一ハ清遠を以て後世
に称せらる
唐代ハ文学極盛の時にして経学文章共に盛なり魏徵

陳子昂張若虚李白杜甫韓愈柳宗元孟東野白樂天元
微等詩文を以て一世を聳動せり
宋代に至り儒學は始て性理となり仏氏の説亦漸く
行はる邵康節は性理學を以て歐陽修三蘇曾王黄底
堅は詩文を以て起り南宋に至り朱子一代の大儒と称せらる詩
は陸放翁を以て巨擘とせり元の誇るべきは宋曽有の小説戯
曲の発達なり水滸傳といひ三国志といひ西廂記琵琶
記といふ元代小説四大奇書たり
明朝文教を奨励すといへども八股文を以て士を取る故に
文學の発達を見す宋濂劉基王璋方孝儒の徒文名世

を蓋ふといへども宋の糟粕を嘗むるに過ぎず独り
宋儒と對抗するもの一王陽明あるのみ高青邱李東
陽其他諸士亦能く詩を賦し西遊記金瓶梅の小説亦
後世靈業を以て人皆之を称せり
清は始て考證の學を興す先秦の諸子の理を談した
る反動は漢唐二訓詁の學あり宋儒性理の反動とし
て此時考證の學風起り詩文も又漸く盛なり閻若
璩は考証學の巨擘として侯方域魏禧汪琬呉梅村錢
牧齋王漁洋朱竹垞等は詩文を以て称せらる紅樓夢桃花
扇の小説出づ而して金聖歎は小説の批評家として

其名一世に重せらる
漢書藝文志に宓義雜子道と題する書名二十篇を載せしこり伏義氏の自ら撰述せしものなるや黄帝以来に編纂せしものなるや或ハ後世其名に託して著作せしものなるやハ詳ならずと虽も此書を以て支那人著書の始とすへし其後炎帝神農氏に神農雜子技道二十三巻神農兵法大幽五行二十七篇神農教田相土耕種十四篇等あり而して黄帝有能氏に至りてハ其著頗多く又其臣風后力牧鬼谷子岐伯扁鵲蒼頡等の著述ありと称するものあり禹王の大禹二十七篇

又山海経十三篇も禹の著述ありと傳ふ湯王に天乙三篇なり以上皆班固の藝文志に載する所なれとも隋唐以来の書目にハ山海経を除くの外亡供せしものと見へ收録せられず隋唐以後の書目にハ反て漢志に載せさる神農本草其他黄帝の著と称するもの少からん元初宋人馬端臨の説に上古の書勝けて計ふ可からんと虽其説荒誕故に取らずといへり故に黄帝の著なりと称するものゝ如き多くハ後世に至り其名に託して偽作せしものたるハ支那の学者皆定論あり文献通故経籍考の総序に古書の今に流傳

する者ハ惟六経のミ六経の前ニハ三墳五典ハ索九丘あるのミとあれとも三墳以下の書名ハ漢書藝文志に載せさるを見れハ秦火に焼棄せられて後世に傳ハらさりしものゝ知る可らず然れ共楚の左史倚相ハ能く三墳五典八索九丘の書を讀むとあれハ此時代までハ世に傳ハりしものたるは論を待たさるなり馬端臨の説に三墳ハ伏犠神農黄帝の書にして大道を言也五典ハ少昊顓頊高辛唐寔(グ)の書にして常道を言ふなり歴代の帝王之を宝訓として之を保管す固官に外史官三皇五帝の書を掌るといふもの是なり

八索ハ八卦の説にして索ハ其義を求る也九丘ハ九州の志にして土地の生する所風氣の宜き所皆此書に聚るなりといへり孔仲尼書を修むるに方り其史料に供せし所のものハ則ち以上の三墳五典なりしといふ事孔安国の書の序に見へたり宋の元豊中唐州の民家より出たる三墳書ハ天覚の偽撰なりと傳ふれとも鄭夾際の説にハ後人の能く為す所にあらさるべしといへり要するに伏犠八卦を画して書契を造り結縄の政に代ふ是に依りて文籍始て生すとあれとも書契ハ未た書籍の温觴と為すに足らず故に余ハ

漢書藝文志所載の書と馬端臨文献通老の説とに拠り其真偽と荒誕とハ姑く置き伏犠雜子道二十篇を以て支那書籍の権輿と為すなり秦漢以前の書籍ハ青竹を剖り之を截り火に炙りて其汗を去り小穴を穿ちて韋を以て上下を貫通し漆を以て文字を記す之を竹簡といふ所謂孔子晩而好易讀之韋編三絶といふもの是也而して其文字ハ蝦蟇子の如し故に後世之を蝌蚪文又ハ古文と称せり孔安国尚書序に前略於壁中得先人藏書古文虞夏商周之書及傳春秋論語孝経皆科斗文云々料斗書廃已久時人無知者をあ

る是なり安国ハ孔丘十二世の孫にして漢武帝(高祖ヨリ五代)に仕へて諫議大夫たり但し高帝の時にハ尚ホ科斗の書をも小学書として児童に課せしと見へ漢志に古者八歳入小学周官保氏掌養国子教之六書又蕭何草律著其法曰太史試学童能諷書九千字以上乃得為史又以六体試之課最者以為尚書御史史書令史史民上書字或不正輙挙劾六体名文奇字大小篆書繆篆典書云々とあるを見れハ人民ハ蚪斗文をも肆ひしものと見へたり

尚書原と百篇ありしも漢世傳ふる所(志)其一篇を

亡す故に五十七篇（五十八篇のこと）此中伏生に出るもの二十三篇魯恭王孔子の宅を壊ち得る所二十五篇孔安国合せて五十九篇となす而して尚に四十一篇足らぬ宋欧陽修日本刀の歌に据れば徐福我国に来る時全篇を携来るといへり但し此説に就きてハ支那朝鮮の学者議論少らぬと雖も仮に徐福来る時齎来るとする時ハ必ず其竹簡の我邦に存せさる可らぬと思ひしに此頃宮川南谿の西遊記を通讀せしに左の一説あり

徐福始皇の暴政を悪み不老不死の薬を求めん事を乞ひ童男童女五百人を率ひて我国に来る云々熊野新宮の宝蔵神宝にハ前秦の文書なともあり云々徐福の塚ハ新宮の町の濱手の畑中に在り云々（但し徐福の来りしハ我孝元帝の二年に当る）

若し此前秦の文書といふものならは必ず竹簡なるへけれハ紀州辺の人ハ試に訪ふて見らるへし竹簡にハ一定の寸尺あり字数も書によりて異同ありしと見へ硯北雑志に鄭康成の説を載せて易持書春秋ハ簡の長サ一尺二寸幅八分毎簡三十字孝経ハ之に半ハれ論語ハ簡の長八寸也大凡毎簡三十字と

あり蓋周宣王の持史　大篆を造り秦の李斯小篆を
造り同時代に程邈隸書を造りしといへは竹簡の文
字も蚪蚪文のことにてはあらさりしならん
竹簡より巻軸に変せし時代は詳かならされとも明
胡元端筆藪に自漢至唐猶用巻軸とあれは漢以後巻
軸に変せし如くなれ共前漢時代には未々紙の製造
あらされは蓋し縑帛の巻物にてありしならん初学
記に云古志以縑帛依書長短隨事截之名曰幡紙故其
字從糸貪者無之云々即ち名を竹帛に垂る又其諷誦不
独在竹帛故也なとゝあるもの是也又宋高承事物紀

原に其用縑帛者謂之紙謙貴而簡重並不便とあるに
拠れは富貴の人は縑を用ひて巻物と為せしと虽貧
生に在ては或は蒲葉に字を書し路温舒或は柳葉に経を
写し孫敬又は樹皮を剝き編て書と為せし張儀蘇秦なり古人
の書を讀むに不便なる察するに餘ありと謂ふ可し
後漢安帝の時尚方令蔡倫樹層麻頭敝布魚網等を用
ひて紙の製造を工夫せしより紙をつき之を巻き軸
を造る之を巻軸又巻子といふ聽雨紀談に古人
蔵書皆作巻軸鄴侯多書插架三萬軸此制在唐猶然
りとあり唐の時代には巻子盛んに行はれしものと

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

見へたり　而して巻軸の装潢も富貴の人ハ頗美麗を極めしものにて隋煬帝蔵書の如き上品ハ紅瑠璃軸中品ハ紺瑠璃軸下品ハ漆軸を用ひしといひ唐四庫書の如きも皆益州麻紙を以て書を写す其経庫書ハ緑鈿白牙軸黄帝紅牙籤其史庫書ハ云々なとあり又此巻子本ハ今日に至るも絶て廃せられず好古の人ハ故らに之を製して愛玩せり

巻軸の後に出てたるものを搨といふ明都穆聽雨紀談に巻舒之難因而為摺とあり此摺といへるハ即折本の事なり此ハ唐宋宋初より行ハれしといふ

今ハ仏経或ハ書画帖又習字本等に甚形遺れり　又摺に前後して旋風葉といふものあり　岡本況齋の説にこれハ折本のうらより紙をあて初めの処と終との処に粘を付たるものにてひろくれハわなにありて一帖〳〵悉くひろかりて唯一葉の風に旋轉するゝ如し故に此名あり何により裏より紙を添る事の起れるかと云に折本と云ふものハとかくに斜めに曲り折目うるハしからぬものなれハ斯くなせるなりといへり　又蝴蝶装といふものあり宋王深談録に書冊黏葉為上といへるもの即蝴蝶装

の一名あり岡本翁の説ゐ紙を幾枚も重ねて
一とまとめゐ二つゐ折て其折たる所を粘付ゐ
之を粘葉と云ふたとへバこの重ねたる紙十枚あゐは
物を書付るゐ斗一紙の半分ハ最末の処ゐなるゐれ
いもし粘ハなるゝときハ文段混淆して讀つけか
たし古昔の紙ハ厚き故ゐ文字をハ一枚の紙の表ゐ
ゟ裏ゟしかくなり又一轉して紙五七枚つゝを重ね折
しる方ゐ表紙をあて粘なてつくるなり枚ハ斗一紙
の半面が最末ゐならずして五七枚の一つゝのね末
の処となるなり乃ち近日の蘭書の如し云ゝ藤井貞幹

の粘葉ハ蝴蝶裝なりと好古小録ゐ記せしといへと
も況翁ハ此説非ありといへり余ハ談錄の説ゐ粘葉
とあるハ蓋し此蝴蝶裝を云ふなるへしと思へり況
翁の説ゐ云く古昔ハ今日の如く程合なゝ云へる
ことなく枚本をは斬くなしのたきゟより枚ゐすり
しる紙を一枚ゝゝゐ本文を内ゐして二つゐ折て重
るなりされハ二枚あけてハ文字をよみしなり此仕
てハ文字をよみ又二枚あけ
り之を蝴蝶裝と云ふも此仕立の処ひらゝするゟよ
又ハ旋風葉ゟ轉し
国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

や否我ハ未〻如此仕立の裝を見さるのみなれ
支那の書にも其記載を発見せさるなり疑耀に讀
書敏求記に云前畧彩鸞所書韻書落人間者多余從延
陵李氏曾覩其眞蹟中略与達御所藏者異逐葉飜看展
轉至仍合爲一卷云〻宋張邦基墨莊漫録云旋風葉此
眞曠代之奇宝云〻とあり即ち是なり
疑耀の説ハ蓋し粘葉なるに似たり姑く此説を掲
て博雅の示教を待つ之より綫裝と称する今の冊子
とありしなり要するに竹簡変して巻軸となり巻軸
変して葉子となる而して葉子に摺あり旋風葉あり

蝴蝶裝ありて後綫裝に変せしなるべし
（省くし）（歴代書籍の盛衰隋書籍印行攷（隋開皇十三年ノ
條に云ふへし）
秦始皇李斯の上書を採用し史官の掌る記録図書の中
秦記を除くの外ハ皆之を燒棄し詩書及ひ百家の語ハ
守尉に出して之を燒りしめ窃に詩書を偶語する者
又ハ古を是とし今を非とする者吏員知て不問に措
く者等ハ或ハ棄市或ハ族刑に処し此法律発布の後
三十日に及ぶも尚ホ其書を燒棄せさる者ハ黥の上
城旦の刑に処し且儒士の如きハ之を坑殺するに至

れり但医術ト筮種樹の書ハ此限に非さるを以て易
の如きもト筮の書と認められ其災を免れ其他医術
及ひ農業に関する書にして班固の藝文志を撰録せし時
まて傳ハりしもの少からず蓋し六経の如きハ其書
を焼き讀誦を禁すると呉氏人々口耳を以て相傳ふる
を以て幸にして永く今日に傳ハるを得たれとも其
他の書に至りてハ流傳せしもの甚少クりき
漢興て以来大に図書を蒐集し献書の道を開き恵帝
の時に至り挾書の禁を解きしも公卿大臣に武夫の
徒多くして文学を顧る人稀れなりしハ孝文帝に至

り頗る儒学を好み故掌故晁錯をして伏生に就きて
尚書を受けしむ是より稍々儒学盛んなるに至る武
帝の時に及ひ藏する所の典籍往々缺脱し礼楽の参
考書に欠乏を生するに由り帝甚ぶ之を閔み藏書の方
法を計画し又寫書の官を置きて盛んに謄写して其
欠簡を補へり是に於て諸子傳説の書書庫に充溢す
るに至る然れ共当時の目録を記載せしものハ傳ハ
らさりしなり此時代魯恭王(景帝の子)孔子の旧宅を
壊ち其居を廣めんとして其壁中より科斗文の竹簡
我得たり其書ハ即虞夏商周の書及傳春秋論語孝経なり

当時の人能く之を讀む人なし曾て伏生に聞く所を
考へ更に隷古を以て更に写し取れりといふ事孔安
国の尚書の序に見ゆ昭帝宣帝元帝を歴て成帝の代
に至り秘府の書次第に散亡を告けしに由り謁者陳
農求を四方に派遣し大に遺書を捜求せしむ此時何間
献王の如きハ仲尼及其弟子及び後學者所記禮書百三
十篇を献せり又当時李氏周公撰む所の周官を得て
之を王に献す而ほに冬官一篇欠く五千金を賭して
之を募れ共得す考工記を得て之を奏すといふ此際
図書追々増加せしに由り遂に詔を下し光禄大夫劉

向に経傳諸子詩賦を歩兵校尉任宏に兵書を太夫令
尹咸に数術を侍医學柱関に医學を校せしめ一書成
る毎に劉向其篇目を修め其要を撮て之を奏上し七
略別餘二十巻を著録す之を支那書籍目録の濫觴と
す哀帝の時に至り劉向已に卒せしかハ向の子侍中
都尉劉歆に命して父の業を継がしむ歆羣書を総括
して輯略六藝略諸子略詩賦略数畧方伎畧の七畧を
編修せり著録の書大凡三万三千九百巻なり可惜此
書ハ王莽の乱に悉く焼失して遺す所なかりしとぶ
光武帝中興の後頗る文雅を好み明帝章帝尤経学を

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

尊崇す王莽篡立の時士大夫多く山野に遁逃せし者
復ひ出つ於是図書大に集り石室蘭臺の書庫大に
充積す又東観及ひ仁壽閣に於て新書を蒐集し校書郎
班固イ毅等之を掌り七略に準して目録を編す漢書
藝文志是なり著録の書大畧三十八種五百九十六家
一万三千二百六十九巻あり後漢の図書ハ董卓都を
移すの時に方り散乱し其辟雍東観蘭台石室宣明鴻
都の諸書庫内に蔵する記録文章皆擾乱し人相競て
之を分捕り其縑帛の大なる者ハ維蓋となし其小者ハ
裘を為すにならしといふ其巻数詳らならず

顧ふに此時の景況ハ我庄仁の乱に桃花坊の文庫
の敵手に罹りし時の如くならん
庄仁の乱に一条兼良の邪の桃花坊の文庫焼て
野原となり其あたりの盗賊としたちこそりて七
百余合の志しのすしかを引ちらし大路を反古と
なしたりしよし此邪の竹林抄の序にかくせ玉へり
乱れ世の志ひさあさましなとも世の常なり其七百
餘合の書ハ合ことに五十巻を計りて三万五千餘
巻の文なり云々
魏氏曹操漢に代り遺書を采集し之を秘庫に蔵む秘書

郎鄭默中経と称する書目を編す秘書監荀勗又中経
に因り更に新薄を編し分て四部となし群書を総括
せり即著録の書大凡二万九千九百四十五巻
東晋の初元帝漸く更に図書を鳩聚し著作郎李充
魏の荀勗の旧簿に由り之を校し書目を編す其現存
せる者三千十四巻充ハ甲乙を以て之を二別す又安
帝の時義熙以来新集書目一巻あり隋志経籍志に見
ゆ
晋武帝太康中汲郡民家より周書記年穆天子傳の竹
簡出つ大年三国志成る懐帝の乱に京師蕩覆し石梁

閣の文籍悉く亡し復遺す所なりしといふ
宋武帝劉裕晋帝を殺して自立し晋の都に入り其国
籍を收む府藏有する処纔に四千巻然れ共皆赤軸青
紙文字古拙なりしといふ文帝元嘉八年秘書監謝靈
運四部目録を編む著録の書大凡六万四千五百八十
二巻ありき後廢帝昱の元徴元年秘書丞王倹又目
録を撰す大凡一万五千七百四巻を著録す倹又別に七志
を撰む(一)経典志六藝小学史記籍傳を記す(二)諸子
志今古の諸子を記す(三)文翰志詩賦を記す(四)軍書志
兵書を記す(五)蔭陽志陰陽国諱を記す(六)術藝志方枝を

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

記す(七)図譜志地域及図書を紀し作者の意を述へす
但書名の下に毎に一傳を立て而して九篇條例を作り
首巻の中に編せり　学者の説に文義浅近典則とな
すに足らすといふ
齊の代には武帝の永明中秘書丞王亮同監謝朏又四
部書目を撰む著録の書大凡一万八千十巻齊末兵火
の為め秘閣経籍遺散せり
梁武帝蕭衍の代秘書監任昉命を奉して篤集し文徳
殿内に衆書を列蔵し又華林園中に総集及釈書を蔵
む但釈書を除き大凡二千百六巻大同中任昉并殷鈞

共に四部目録を撰し又文徳殿目録を撰せり　術数の
書は別に一部の書目を編す故に梁には五部目録の
名あり是より先き普通中處士阮孝緒博く宋齊已来
王公の家に就き図書を捜訪し更に七録を撰す(一)経
典録六藝を記す(二)記傳録史傳を記す(三)子兵録子害
兵書を記す(四)文集録詩賦を記す(五)技術録数術を記
す(六)仏録(七)道録とす其分部項目次序ありと虽氏辞
義浅薄の誹を免れさりしといふ元帝侯景を平けし
時文徳殿及び公私の図書を收め七万餘巻あり悉く
荊州に送る周の兵都に入に及び之を外城に焼棄せり

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

故に其收る所僅に十分の一二ありといふ所謂牛弘の称する書之五厄是也

後魏始め燕代に都し南中原を畧し稍経史を蒐集せしも未だ全く具らず道武帝嘗て博士李先に問ふに天下何物か最善く人智を益すべきを以てす李先答て曰ふ古書に若く者なしと帝又問て曰書籍凡そ幾何かある又之を集る方法如何と對て曰く書契已来書籍勝て計る可からず苟も人主所好何憂不集と乃ち郡縣に命し大に書籍を收集し悉く之を平城に送りて藏せり孝文帝都を洛邑に徙してより書籍を齊国より借て之を謄写し書庫稍充実するに至りしが亦来の乱に散亡せりといふ

後齊鄴に遷り天統より武平に至る此間頗る書籍を捜聚し校写輟めさりき

後周は始め関右に都し外強隣に通す故に戎馬の事絶へず保定の始書僅に八十許ありしが稍増加して萬巻に及べり武帝齊を平げ先づ書府を封す於是五千餘巻を増すに至る

隋文帝開皇三年秘書監牛弘の表に由り使人を諸国に分遣して盛んに書籍を蒐集せり異本は巻を捜訪

する者にハ絹一匹を賞与し校写既成すれハ之を主
に帰す於是氏間異書往々間出するに至る又先きに
陳を平けし時獲る所の書籍中太建時代の書ハ紙墨
精ならん書亦拙悪なるを以て更に天下工書の士京
兆韋霈南陽杜贈等を秘書内に召して残缺を補續し
正副二本を写し之を宮中に藏む其餘ハ秘書内外の間
に実てり其数凡三万巻ありしと又煬帝即位の後
秘書省官吏百二十員を増し皆学士を以て之に補し
又王府学士を置き常に修損を為さしむ帝亦好書故
に自ら著述をなせり帝の前後二十年間修損する所経

術文章兵農地理医ト釈道等以下三十一部一万七千巻
に至る初め嘉則殿の藏書三十七万あり帝秘書監柳
顧言に命して之を詮次せしめ其重複猥雑を除き正
御本三万七千餘巻を得之を京都修文殿に納め又副本
数巻を写し分て三品となし上品は紅瑠璃軸中品ハ紺瑠
璃軸下品ハ漆軸とし東都観文殿の東西に書庫を構へて之を
貯ふ即ち東屋にハ甲乙を西屋にハ丙丁を藏む又魏以来の
古跡名画を聚め観文殿此後の方に二臺を建築し
東を妙楷と号し古跡を藏め西を宝臺と号し古画
を藏し又別に内道場に於て仏経道経を集めて之を

藏す而して観文殿前に覧書室を設く窓戸壮
褥厨幔咸な珍麗を極む三間毎に方戸を開き錦幔を
垂れ上に二飛仙あり戸外には地窖中に機を施し帝書
室に幸する毎に宮人香爐を執りて前行し真機を践め
ハ則ち飛仙下りて幔を收め上れハ則ち戸扉及び
厨屏皆自ら開く帝出つれハ復閉る故の如しといふ
唐興るに及び武徳五年其図籍を收め司農少卿宋
遵貴之を唐に漕運せんとし途次毎覆り存する者十
の一二に及ハ其目録に水の為めに濡さるに至るといふ
唐ハ書を分て四類となす曰く経史子集是なり蔵書

の盛なる開元より盛なるハなし其目録に收むるし
の五万三千九百十五巻唐人の著述書二万八千四百
六十九巻あり初貞観中魏徴虞世南顔師古に秘書監
となり廣く天下の書籍を購求せん事を請ひ又五品以
上の子孫にして書に工なる者を挙て書手となし盛
に書籍を謄写せしむ玄宗の時民間の異本を借りて
傳録し其後大明宮光順門外東都必福門外に集賢書
院を設け学士をして常に出入せしめ月毎に蜀郡麻
紙五千枚を季毎に上谷墨三百六十丸を歳毎に河間景
城清河博平四郡の兎皮千五百枚を給して筆材とし

以て謄字の料となす両都各書四部を聚め甲乙丙丁
を以て次となし経史子集を四庫に列す其本正あり
副あり軸帯帙籤皆色を異にして之を分てり九年十
一月殷践猷等撰む所の群書四部録二百巻重修成る
後世斐略して四十巻となし名けて古今書録と為す
收むる所大凡五万千八百五十二巻あり安禄山之乱西
部覆没呉籍亡散殆と尽く粛宗代宗数詔を下して
購募す又宗の時遺文を捜訪して大に謄写し開成の
初四部の書五万六千四百七十六巻に至り分て十二
庫に蔵む廣明の初黄巣長安に入り両京陷り宮廟寺

署焚蕩し寸籍尺簡も遺あるなし昭宗即位播遷諸道
に命して購求蒐集せしも洛陽に遷るに及ひ蕩然遺
す所なかりき
後唐莊宗民の献書を募り三百巻に及へハ授くるに
官職を以てす明宗長興三年初て国子監をして九経
を校定し之を彫印して発賣せり是より印本漸く行
ハるに至るといふ
後漢乾祐中礼部郎司徒調の請により人民に献書を
許可し丸そ儒学の士亡書を献する者にハ其巻帙の

多少を計り之に金帛を賜ひ其数多き者には授くるに官秩を以てす当時戎虜跋扈国家康からは旧族所々に轉移せるを以て詔下るも応する者甚稀ありき周世宗は史館の蔵書募少なるを以て鋭意求訪す書を献する者には優賜を加へて之を誘致せり然れ共民間の書傳写斗誤少からは乃ち常参官三十人を選て校監刊正巻末に校者の名を署せしむ当時諸国分拠各典籍を蒐集す而して呉蜀の地頗る多し江左の書は最も精査一修述ノ書籍亦多し

宋は建隆の初三館の蔵書一万二千餘巻あり乾徳元年荊南を平け其図書を収めて以て三館に実つ三年蜀を平け其図書を収む凡そ一万三千巻あり四年詔を下して亡書を購募す渉弼等の献書千二百二十八巻あり又吏民の献書する者は館中の有無を調査し其無き所の者は之を収め献書人は学士院に就て試問の上職官に補せしむ開宝八年江南を平け金陵に在る図書を収めて二万余巻を得自是群書漸に備る銭俶来附又其書籍を収む太平監国の初太宗別に三館を建設す三年二月書院成名けて崇文院と称す於是旧館の書を移して以て之に充つ書庫二棟書籍正副合

せて凡八万巻を藏す九年又詔を下して闕くる所の
書を購募す七書三百巻以上を上る者ハ酬奨を授
け官より送るを願ハさる者ハ之を借写す於是四方書
籍往々相聚る端拱元年三館の書万巻余を分ち別に書
庫を設く之を秘閣と称す淳化二年五月史館所藏の
書天文歴算陰陽術数兵法の書凡五千十二巻天文図
画百十四巻を秘閣に移し藏め八月宴を群臣に賜て
大に図書を陳列して之を観せしむ是歳李至等の建
言に由り秘閣を三館即崇文院に次列せしむ宋の藏書ハ初め崇文院に藏せる書建隆より太中
祥符に至るまて前後三万六千二百八十巻より
八年館閣火あり更命して補写す九年又詔して逸書
を購求す其存廃を定め唐の開元四部録に倣い崇文
総目を編む慶暦の初成る著録する所凡三万六百六
十九巻嘉祐四年吳及の建言に由り吏を分て補写し
黄紙を用ひ以て蠹蝕を防く未幾詔を下して亡書
を購募す熙寧四年集賢院学士史館修撰宋敏求の建
言を用ひ前漢書藝文志其他の古書目録に就て其書
籍を求めて校正の底本に供す七年成都の人郭大
亨三千七百七十九巻を献す秘閣藏せさる者僅に五

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

百三巻大享を將佐監主簿に補す是より中外来り献
する者甚多く四百四十部六千九百三十九巻に及へ
り元豊三年官判を改め崇文院を廃して秘書省と為
す崇寧中両浙咸都民間の鏤板奇書を索上せしむ大
観二年秘書監何志同の上申に依り文学博雅の士を
選み崇文総目收むる外の異書を訪求せしめ或ハ傳写
或ハ其家に就て之を写校す政和七年校書郎孫覿の
請に從ひ崇文総目を増補し更て秘書総目と題す四
年詔を下して又民間遺書を購募す又別に宣和殿太
清樓及秘閣に総理を置き工を募りて繕写校正せしむ

但其費用ハ悉く内帑を出して之に充つ自是四方の
奇書往々集る五年栄州助教張頤二百二十三巻李東
一万六十二巻を献す皆官に補せしむ熈寧以来捜訪
補緝宣和に至り盛んなりといふ靖康の変に多く散
失すといへとも著録する所凡千四百四十三部二万
五千二百五十四巻あり
高宗南渡の後臨安に都し秘書省を建て献書の詔を
下し又ハ故家に就て謄写す鬻く者あれハ之を購ふ
書籍稍々集る淳熈四年秘書少監陳騤等の上申に由り
崇文総目の例に倣ひ目録を類次す五年書目成る著

録する所四万四千四百八十六巻崇文総目に較すれ
バ又一万三千八百十七巻多を嘉定十三年續
書目を撰み又一万四千九百四十三巻を増せり而て
大常太史博士の蔵本等ハ共らさるなり蓋し詔興より
嘉定に至る承平百載此間遺書盛んに出て又立言の
士著述多く旦印本盛んに行ハるゝを以て秘府に入
る者頗多し紹定辛卯秘府火災に罹り書多く欠くる
に至り自是厥後国歩艱難軍旅の事に日も又足られ
君臣上下頃刻も文学を以て務と為す事能ハさりし
元脱々曰く蓋太祖より寧宗の朝に至る書目を編する

凡そ四部今其重複を刪り合て一志と為す大凡九千
八百十六部十一万九百七十二巻云元明清ノ事次講に
譲る

備考

蝴蝶装 疑耀六今秘閣中所蔵宋板諸書皆如今制御會進呈試
録謂之蝴蝶装其糊経数百年不脱落不知其糊法何似
閲王古心筆録有老僧永光相過古心問僧前代蔵経接逢如
線日久不脱落何也光云古法用楮樹汁飛麹白芨末三
物調和如糊以之粘紙永不脱落堅如膠漆宋世装書豈
此法耶

旋風葉 讀書敏求記云周公謹云焦達卿有呉彩鸞書切韵一巻

其書一先為二十三先二十四仙相伝彩鸞所書韵散落
人間余從延陵李氏曾覩其真蹟一先仍作一先与
達卿所藏者多異逐葉飜看展轉至末仍合為一卷強邦
基墨莊漫録云施凡葉者即此真曠代之奇宝因悟古人
玉麌金題之義虞典所以有熟紙裝潢匠之別也自北宋
刊本書行世而裝潢之技絶矣今幸遇此韵得覯唐時卷
帙旧観今李氏零洛此卷不知帰何人世無有賞鑒其裝
潢者惜哉

通雅云唐始有葉子今書冊是也昭文館版本淳熙進
読陸贄奏議令日讀五版此葉子書也予謂蝴蝶裝旋
風葉豈其葉子書與蓋卷軸変為葉子〻〻変為綫裝
古今之異如此近来李笠翁花草譜頁粘成冊意是葉子
之遺已

群碎録云帙者古人書卷外必有帙藏之如今裹袱之類
自集天学以文集留廬山草堂屢亡逸宋真宗令崇文院
写校包以班竹帙裹之云是宋物帙如細簾其内襲以簿
繒観帙字巾旁可想也

疑耀云　余幸獲校秘閣書籍毎見宋板書多以官府文
牒飜其背以印行者如治平類篇一部四十卷皆元府二
年及崇寧五年公私文牒牋啓之故紙也其紙極堅厚背

面光沢如一故可両用若今之紙不能爾也
有学集方言跋云今旧藏子雲方言正是此本而紙墨尤
精好紙背是南宋樞府諸公交承啓副翰墨燦然千令墨
之更有東京夢華之感
始皇燔書方我孝元帝二年先此徐福帶経典入我朝
云宋欧陽修曰徐福齎尚書百篇去　日本刀歌云傳聞
其国居大海土壌豊饒風俗好前朝貢献屢往来士人往
〻工詞藻徐福行時書未焚逸書百篇今尚存令厳不許
傳中国峯世無人識古文先生大典藏夷貊蒼波浩蕩無
通津令人感激坐流涕鏞瀝短刀何足云書原五十八篇

欠四十二篇矣而徐福抱編簡来竹簡古有存我国者也
必矣惜不獲見之
頃閲坪井文学博士中略東洋歴史教科書云前略当時未
有紙筆編竹木為巻以鉄筆刻字又以漆書写云〻此説
有所何据然乎洵可憫笑之説矣
史籍十五篇周宣王太史作大篆十五篇
黄帝四経四篇黄帝銘六篇黄帝君臣十篇雑黄帝五
十八篇　力牧二十二篇黄帝　伊尹五十一篇
以上蓋大国時代託黄帝或力牧而所作云
黄帝恭素二十篇六国時代韓諸公子所作云

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

孔甲盤盂二十六篇黄帝之史或曰夏帝甲孔似皆非云
大命三十七篇　傳云禹所作其文似涉世語云
神農二十篇六国時代人怠農事故託神農所作云
伊尹說二十七篇　天乙三篇　黄帝說四十篇
蚩尤二篇　神農兵法一篇　黄帝十六篇図三巻
封湖五篇又風后十二篇皆黄帝臣託世云　力牧十
五篇同上　鬼容臣三篇黄帝臣云
黄帝雜子気三十三篇
黄帝五家歴三十三巻　顓頊歴二十一巻　同五星歴
十四巻

夏殷周魯歴十四巻
黄帝滄湯二十五巻　同諸子論陰陽二十五巻
神農大幽五行二十七巻　風鼓六甲二十四巻　風后孤
歴二十巻
黄帝長柳占夢十一巻　神晨教田相士耕種十四巻
山海経十三篇
黄帝内経十八巻　外経三十七巻　扁鵲内経九巻
外経十二巻
秦始黄帝扁鵲愈拆方二十三巻　神農黄帝食葉七巻
堯舜陰道二十三巻　湯盤庚陰道二十巻

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

黄帝三養湯方 二十巻　宓戯雑子道 二十巻
黄帝雑子歩引 十二巻　同岐伯按摩 十巻
黄帝雑子芝菌 十八巻　黄帝雑子十九家方 二十一巻
神農雑子技道 二十三巻

以上漢書藝文志

黄帝問玄女兵法 四巻　同兵法雑要沢 一巻
同軍出大師年命立成 一巻　同複姓符 二巻
同蚩尤風后行軍秘術 二巻
黄帝集昊 三巻　同絳図 一巻　同竜首経 二　同式経 三十六
一同式用当陽経 二　同奄心図 一　同九元遯甲 一　同五
軍遯甲式法 一　同素問 九　同八十一難経 二　同鍼経 九
同本草 八　又 四

竹簡　夏殷周三代ノ書籍ハ皆竹簡ニ科蚪ノ文字ヲ
記シテ之ヲ用ユ竹ヲ割リ火ニ炙リテ油ヲ去リ穴
ヲ穿チ之ヲ韋革ヲ以テ括ル文字ニ定数アリ硯北
雑志ニ云　鄭康成言易詩書春秋ハ簡長尺二寸毎簡
三十字孝経半之論語ハ簡八寸也大凡毎一簡字三
十字云々　古者以縑帛依書長短隨事截之名曰
幡紙故其字従糸貧者或用蒲写書則路温舒截蒲
是也（初学記）其用縑帛者謂之紙縑貴而簡重並不便

人蔡倫字敬仲為尚方今乃造意用樹膚麻頭敝布魚
網以為紙奏上安帝善其能自是莫不用焉天下稱蔡
侯紙（後漢書宦者傳）紙砥也謂平滑如砥石也
蔡編乃後漢時人而前漢外戚傳云赫蹄注謂小紙也
紙已見於前漢恕非始于蔡倫但所造精工於前世則
有之耳（學訪估畢）

卷軸（大業拾遺記）煬帝藏書上品紅琉璃軸中品組〻〻
〻軸下品漆軸（六典）大唐御本書有四部云〻分為四庫
皆以益明麻紙写其經庫書録細白牙軸黄帶紅芽籤
云〻

葉子（帰田録）唐人藏書作卷軸後有葉子似今策子
云〻以葉子写之通雅云業子今書冊是也云〻

蝴蝶裝　肅云即粘葉也（王氏談録）云作書冊黏為上品
歲久脱爛苟逸去尋其葉弟足抄録次叙云〻

旋風葉

綫裝

書契　書者文字契者刻木而書其側故曰書契也以代
結繩之政由是文籍生焉　字著於竹帛謂之書

三墳　墳大也言大道也伏犧神農黄帝之書

五典　言常道也少昊顓玉高辛唐虞之書

八索　求其義也至于葛南周之書歷代宝之以為大訓

三　八卦之說

九丘　聚也言九州所有玉地所生風気所宜皆聚此書也古書之流傳於今者惟六経云云之前則三墳五典八索九丘是已楚左史倚相能讀五典八索九丘則学士大夫之所誦習此也今其書亡而其義略見於孔子尚書之序〇上古之書蓋不可勝計其說荒誕故無所取

外史　太史内史御史皆掌官府典籍之職

孔子生於周末観史籍之繁文遂定礼楽明旧章刪詩

万二百篇約史記而修春秋讃易道以黜八索述職方以陰九丘辞論墳典斷自唐虞以下訖于周

秦皇燔詩書百家之說所不去者医薬卜筮種樹之書耳三十四年李斯上書請史官非秦記皆焼之非博士官所職天下有藏詩書百家語者皆詣守尉雜焼之有敢偶語詩書棄市以古非今者族吏知而不挙与同罪下令三十日不焼黥為城旦所不去者医卜種樹之書云云制曰可

以漢以来書籍至今日不存一二非秦人亡之也

学者自亡之耳

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

始皇兼天下燔詩書殺儒士六学從此闕矣漢興解挾書
之令於是諸儒始得修其經学孝小登文学之士孝文好
形名之言孝景之時竇太后好黄老之術太后崩武安君
田盼為丞相黜黄老刑名百家之言延文学儒者以百
数而公孫弘以治春秋為丞相封侯天下学士靡然向
風矣

漢書藝文志序前略漢興政秦之敗大収篇籍廣開献書之
路迄孝武世書鈌簡脱礼壊樂崩帝甚閔焉於是建藏
書之策置写書之官下及諸子傳説皆充秘府至成帝
時以書頗散亡使謁者陳農求求遺書於天下詔光禄
大史劉向校経傳諸子詩賦步兵校尉任宏校兵書太
史令尹咸校数術侍医学柱国校方技每一書已向輙
修其篇目撮其指意録而奏之乃七畧〻別録二十巻
會向卒哀帝復使向子侍中奉車都尉歆卒文業歆於是
総群書而奏

其七畧　輯畧六藝略諸子略詩賦略兵書略術数略方
技畧

大凡三万三千九十巻　王莽之乱焚燒無遺太常大史中秘
有三本　中書多外書少云〻

漢書藝文志出於七畧者也七畧虽疎不溫藝文志有

七畧所無儒家旧五十二種因新書一種別揚雄之三
書也太玄易類也法書諸子也樂箴雜家也合而為一
家班固昀中元無倫類
光武中興好文雅尤重經術四方鴻生巨儒負帙自遠至
者不可勝計石室蘭台弥以充積又於東觀及仁壽閣
集新書校書郎班固傳毅等典掌焉並依七略而為書部
孝和帝数幸東觀覧閲書林灵帝喜平中詔諸儒正定五
経刊於石碑為古文謂孔子壁中書篆則蝌蚪文秦始
皇使程邈所作也隷書亦丶丶所献也碑高一丈計廣
四尺立太学門外瓦屋覆之

董卓移都之際吏民擾乱自辟雍東観蘭台石室明鴻都
諸藏典策文章競共剖其縑帛図書大則連為維蓋少
乃製為縢裳及王允西載七十餘棄其半矣後
長安之乱一時焚蕩莫不泯盡焉
魏氏代漢采掇遺亡藏在秘書魏秘書郎鄭默始制中経
秘書監荀勗又因中経更著新簿分丙四部総括群書
丶丶合一万九千九百四十五巻晋遷帝之乱京華蕩
覆石渠閣文籍靡有孑遺
東晋之初漸更鳩聚著作郎李充以勗旧薄校之其見存
者三千一十四巻充遂総没衆篇之名以甲乙為次

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

宋武帝入関収其圖籍府藏所有纔四千卷皆赤軸青紙
文字古拙文帝元嘉八年秘書監謝灵運造四部目録
大凡一万五千七百四卷信又別撰七志〻〻不述
作者之意但於書名之下每立一傳而作九篇條目編
于六卷之中文義淺近未足為典則云
齊永明中秘書丞王亮同監謝朏又造四部書目大凡一万
八千一十卷齊末兵火延燒秘閣經籍遺散
梁初秘書監任昉加部集又於文德殿内列藏衆書華林
総集釈典大凡二万三千一百六卷而釈氏不与焉至
大同中有任昉殷鈞四部目録又文德殿目録其術数

之書更為一部故梁有五部目録普通中處士阮孝緒
沈靜寡慾篤好墳史博采宋齊已来王公之家凡有書
記參校官簿更為七録〻〻〻其分部題目頗有次
序元帝克卒侯景文德之書及公私經籍帰于口陵大
凡七万余卷周師入鄴咸自焚之
陳天嘉中又更鳩集考其篇目遺闕尚多
後魏始都燕代南畧中原經史未能全其後命郡縣大
収書籍悉送平城孝文徙都洛色借書於齊和書之中
稍以充実及于尓朱之乱散落人間
後齊遷鄴頗更搜聚迄於天統武平校写不較

後周始基関右外通強隣式馬生郊日不暇給保定之始
書並八千後稍加增方盈萬卷武帝平齊先封書府所
加旧本纔至五千
隋文帝開皇三年秘書監牛弘表請分遣使人授討異本
每書一卷賞絹一疋校写既定本即帰生於是民間異
書往往間出云
隋平陳已後経籍漸備極其所得多紙墨不精書亦拙惡
於是総集編次存為古本召天下工書之士京兆韋霈
南陽杜頵等於秘書内補續浅欽為正副二本藏于宮
中其餘以実秘書内外之間凡三万卷煬帝部位增秘

言省官百二十員并以学士補之帝好讀書著述自為
楊州総管置王府学士至百人常令修撰以至為帝前
後近二十載修撰未當暫停自経術文章兵農地理医
卜釈道乃至捕博鷹狗皆為新書無不精洽共
成三十一部万七千卷初嘉則殿有書三十七万
卷帝命秘書監柳顧言等詮次除其重複猥雜得正御
本三万七千餘卷納於東都修文殿又写五十副本分
為三品上品紅瑠璃軸中品紺琉璃軸下品漆軸於東
都観文殿東西廂構屋以貯之東屋藏甲乙西屋藏丙
丁又聚魏以来古跡名画於殿後起二墓東曰妙楷台

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s
ガラス使用

藏古跡西曰宝台藏古畫又於内道場集道仏經別揭
目録其正御書皆裝翦華淨宝軸錦標於于觀文殿前
為書室十四間窓戸牀褥厨幔咸極珍麗每三間開方
戸垂錦幔上有二飛仙下收幔而上戸扉及厨扉皆啓
帝出則復閉如故
唐分書為四類曰經史子集而藏書之盛莫大於開元其
著録者五万三千九百一十五卷而唐之学者自為之
書者文二万八千四百六十九卷嗚呼可謂盛矣初隋
嘉則殿書三十七万卷至武德初有書八万卷重複相
糅王世充得隋書八千餘卷太府卿宋遵貴監運東都

淳舟泭珂西致京師經砥柱舟覆尽亡其書貞觀中魏
徵虞世南顔師古繼為秘書監請購天下書選五品以
上子孫工者為書手繕写藏于内庫以宮人掌之玄宗
令左散騎常侍昭文館学士馬懷素為修図書使与右
散騎常侍崇文館学士褚無量整比會幸東都乃就乾
元殿東序檢校無量建議而書以寄相宋璟蘇頲日暑
如貞觀故事又借民間異本傳録及還京師選書東宮
麗正殿置修書院於著作院其後大明宮光順門外東
都永福門外皆創集賢書院学士通籍出入既而太府
月給蜀郡麻紙五千番季給上谷墨三百三十六丸歲

給河間景城清河博平四郡兎千五百皮為筆材兩都
各聚書四部以甲乙丙丁為次列經史子集四庫其有
正有副軸帶帙籤皆異色以別之安祿山之亂尺簡不藏
元載為相奏以千錢購書一卷又命拾遺苗發等使江
淮括訪至文宗時允鄭允覃侍講請詔秘閣搜採於四
庫之書復完分藏于十二庫黃巢之亂存者蓋尠昭宗
播遷京城制置使孫惟晟斂書本軍寓教坊於秘閣有
詔還其書命監察御史幸昌範等諸道求購及徒洛
陽蕩然無遺矣
後唐莊宗同光中募民獻書及三百卷授以試御其選

調之官每百卷減一選天成中遣都官郎中廋傳美訪圖書
於蜀得九朝實錄及雜書千全卷而已明宗長興三年
初令國子監校定九經雕印賣之
後漢乾祐中礼部郎司徒調請開獻書之路凡儒學之士
衣冠旧族有以三飯亡書來上者計其卷帙賜之金帛
數多者授以官秩時戎虜滑夏之後官族轉徙書籍罕
存詔下鮮有應者
周世宗以史飯書籍尚少銳意求訪凡獻書者悉加優賜
以誘致之而民間之書傳写舛誤乃選常參官三十人
校讐刊正令於卷末署其名銜与自諸國分秘皆聚典

籍惟蜀吳為多而江左頗為精矣亦多修述
宋建隆之初三鈹有書万二千餘卷乾德元年平荊南尽
收其図書以実三鈹三年平蜀遣石拾遺孫逢吉往收
其図籍凡得書万三千卷四年下詔購募亡書三礼涉
弼三傳尉幹学究未載等皆詣闕献書合千二百二十
八卷詔置書府弼等並賜以科名八月詔史鈹吏民有
書籍来献当視其篇目鈹中所藏者収之献書人送学
士院試問吏理堪任職官者以名聞開宝八年冬平江
南明年卷進太子洗馬呂亀祥就金竜籍其図書得二
万余卷悉送史鈹自是群書漸備両浙銭俶帰朝又収

其書籍先是朱梁郡汴正明中始以今右長慶門東北
廬舍十数間列為三鈹後移其他所詔曰崇文院院之
東廊為昭文書庫南廊為集賢書庫西庫有四庫分經
史子集四部為史鈹書庫六庫之書籍正副本凡八万
卷九年詔中外購募有以亡書来上及三百卷当議甄
録酬奬拾卷帙之数等級優賜不願送官者借本写畢
自是四方往々間出端拱元年詔分三鈹之書籍万余
別為書庫目曰秘閣淳化二年五月以史鈹所藏天文
暦筭陰陽術数兵法之書凡五千十二卷天文図画一
百十四卷悉付秘閣八月賜宴於秘閣大陳図籍会観

之初崇文院自建隆至太中祥符著録三万六千二百
八十卷景祐之初季叔宋郊偏四庫書録校二年上
経史八千四百二十五卷明年上子集万二千三百六
十六卷倣開元四部録為崇文総目慶暦初成書凡三
万六百六十九卷後増減更崇文之号曰秘書総目淳照
四年鈹閣書籍前後捜訪部帙漸廣敘崇文総目類次
五年書目成見在書四万四千四百八十六卷較崇文
所蔵文多一万三千八百十七卷嘉定十三年張攀等
續書目又得一万四千九百四十三卷自紹興至嘉定
承平百載遺書十八九著書立言之士又益衆往々多

充秘府紹定辛卯火災書多闕云々々

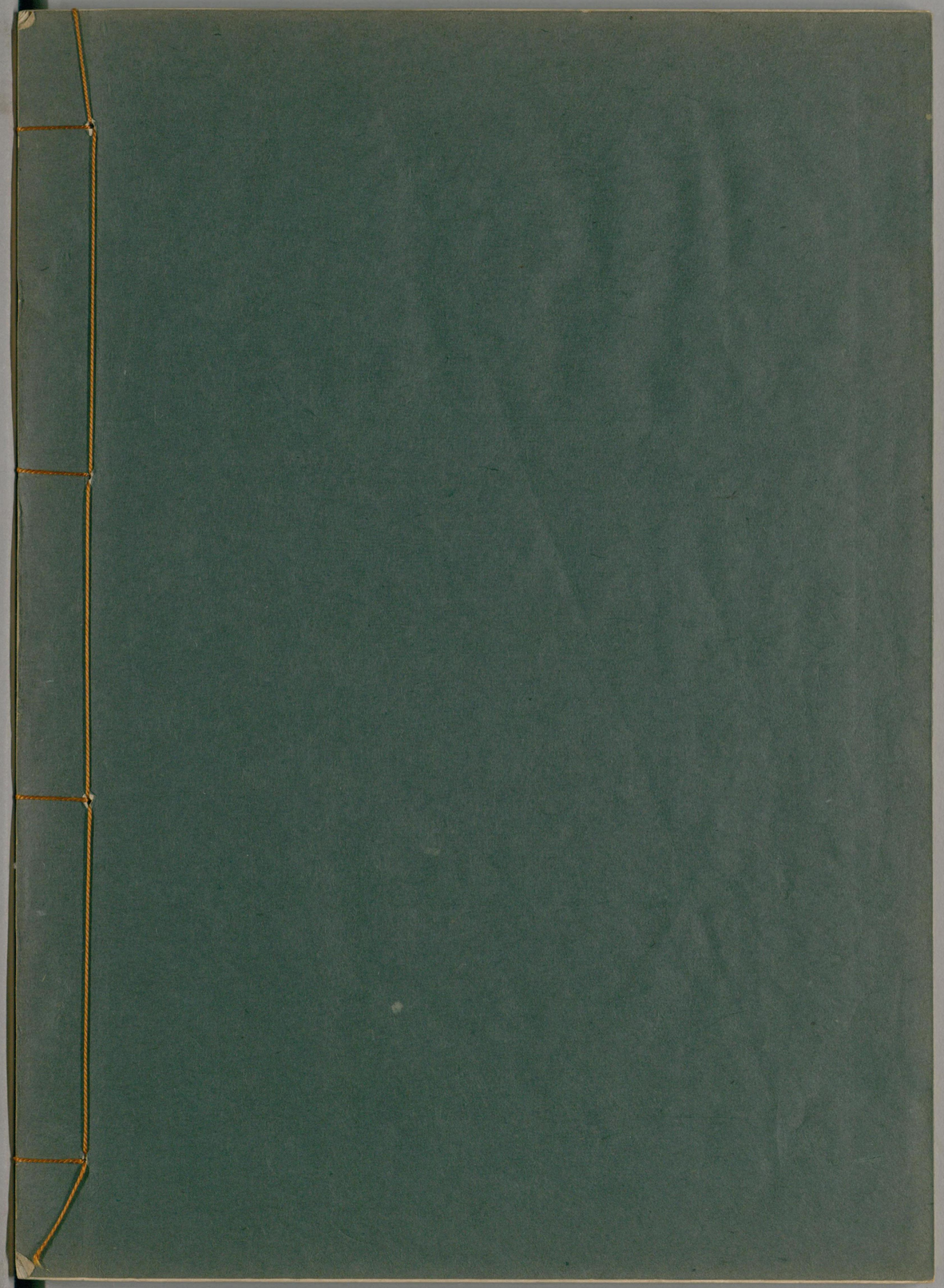
国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『支那書史学』 請求記号 020.12-N452s

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『支那書史学』　請求記号 020.12-N452s

ガラス使用